

令和4年度 第2回北栄町環境審議会議事録

1 日時 令和4年12月22日（木）午前9時30分～11時30分

2 場所 大栄農村環境改善センター 会議室3

3 出席者 委員 別紙委員名簿のとおり

事務局 環境エネルギー課 杉本課長、岩本室長、山本室長、手嶋主幹

4 日程及び内容

1. 開会

上榎会長 あいさつ

出席者確認：過半数以上参加で会の成立

（審議会内容）

2. 議事

（1）脱炭素ロードマップの素案について

資料に沿って説明

（2）その他

特になし

3. その他

（1）環境報告書

令和2年度、令和3年度（作成途中）の報告

資料に沿って内容説明

⇒意見があれば、後日連絡をしていただく

（2）CF0（最高未来責任者）の検討

来年度以降に、未来を担う世代（若い人）の審議会への参加を検討している旨の報告

※特に反対意見なし

（3）その他（来年度以降の検討）

・軟質プラスチック分別回収の実施検討をしている旨を報告

⇒琴浦町を参考に検討を進めていく

・環境配慮型ごみ袋導入の検討をしている旨を報告

⇒現在、クリーン作戦などに試供品を配布し、アンケートを実施して、使用した感想等の状況把握をしている

・（仮称）環境見守り隊の導入の検討をしている旨を報告

⇒散歩の途中にあわせてごみ拾いをしていただくなどの取り組みを広げる

※全体的に特に反対意見なし

議事録（概要版）

議事（1）脱炭素ロードマップの素案について	
委員	資料1 P4 の上の表の Co2 削減は人口減少が主な理由か？
事務局	そういったことが主な理由
委員	資料1 P4 の下の表は 2050 年にゼロカーボンを達成するために必要な条件ということか？
事務局	はい。20 年 30 年かけてしていくことを条件ごとに記入している
委員	資料1 P5 の下の表の運輸部門の Co2 削減の主な理由は？
事務局	電気自動車の普及、ソーラーカーポート等の導入
委員	資料1 P4 の下の表で 2050 年の目標に対して、呼びかけをしながら達成を目指していくと思うが、30 年後の目標だとわかりにくい。10, 15 年の達成目標を作る必要があると思うがどうか？

事務局	2030 年度など、中間目標も作成する予定
事務局	脱炭素が目的ではなく、手段として考えたい。脱炭素を達成するために、地域の課題を解決するためにどう結びつけるかが大切。防災避難所の太陽光、蓄電池導入で防災と脱炭素のコラボ、学校断熱による授業と省エネのコラボ、家庭の断熱により快適で健康な生活環境をおくることができるなど。いろいろな分野で取り組んでいかないと脱炭素が進まない。
委員	なぜ Co2 をゼロにする必要があるのかわかりやすく説明していく必要がある。危機感を持ってもらい、次世代の人にもわかってもらう。ちょっとしたことからできることで、町民に努力をしていただけるよう意識づけが大切だと思われる。町民に知っていただき、町民の意識を高める必要がある。啓発等が大切。
事務局	現在は小学生への環境学習会、自治会等への出前講座等で周知を行っている。今年度取り組んでいる脱炭素ロードマップ作りでも町民向けのワークショップなどを行っており、引き続き啓発に努めたい。
委員	子どもの方が環境問題などに敏感。子どもの方が浸透しやすい。学校でも環境問題等の教育は行われているが、次世代への周知が大切。
委員	環境問題は世界全体の問題だが、大きすぎると難しくなるので、まずは北栄町で取り組める内容を考え、取り組んでいく必要がある。北栄町環境基本計画が作成されているので、計画の周知をしたり、脱炭素ロードマップとの関連づけ等が重要になってくる。
委員	未来トークに参加した。環境問題の状況、なぜ脱炭素が必要か、なぜ危機感を持つ必要があるのか等がわかる場があってよかった。そういった会に参加し、自分達ができることはなにかとか、電気自動車、風車が必要といったことがわかってくると思う。そういった場の開催を行っていけば、脱炭素が一人一人の身近なことになって考え方も変わってくるのではないかと。未来トークの開催は良かったと思う。
委員	風車はどうなっているか？
事務局	現在 JR 東日本エネルギー開発が実施できるかどうかの調査と共に必要な手続きを進めている。また、周辺関係自治会には必要な報告はしている。
委員	資料 1 P5 の表で産業分門の Co2 削減が少ないのはなぜか？企業も努力をしていると思うが。産業部門の農業はどの程度か？
事務局	表の中の産業部門で農業の占める割合は半分程度。ただ、実際の数値が図れないので、農家の人数や生産額等で按分しているため、そういった割合になる。農業で使う軽トラの機械等は運輸部門にカウントされる。ハウスで加温することでエネルギーを使うが、北栄町で加温されているのは少ない様子なので、農家の方は少ないと思われる。農協の施設等が大きいところもあるのではないかと。米、葉タバコ、らっきょうの共同乾燥施設などが大きい感じ。農協とのコラボが重要となる。
委員	企業も脱炭素が進んでいるように感じるが、ボイラーや機械の更新等があり、まだまだ進んでいないところもある。町民の皆さんの快適な生活環境、長寿等に繋がる解決策としての手段として、今後、脱炭素ロードマップを具体化していく。風車は町が持つことが重要だと思われる。今後も脱炭素の理解の輪が広がるようにしていくことが重要だと思われる。
3. その他	
(2) CFO (最高未来責任者)	
委員	良い取り組みだと思う。他の会議等にも若い人の参加をしてもらえる取り組みを広げてほしい。
事務局	まずは環境問題で取り組んでみて、状況により検討していく。
委員	中学生でもいいのでは
事務局	中学生～大学生など幅広く若い方に参加してもらおうように検討したい。1人では参加しにくいこともあるかもしれないので複数人になる可能性もある。また、学生であれば、夜間の会議になる可能性もある。

委員全体	了解
------	----